

優 秀 賞

未来へ繋ぐ

筑西市立下館中学校

二年 藤野美唯

私が生まれた時から、川は身近にありました。五行川または勤行川です。関東平野の北部から南部へと流れる一級河川です。春には桜が咲き誇り、桜の下で家族写真を撮るのが毎年恒例の行事になりました。夏は下館祇園まつりの川渡御が、秋には鮭の遡上を見ることができません。天気が良い日や、なんとなく落ち込んだ時には、川のせせらぎや水の流れを見に行きます。川沿いを散歩したり、サイクリングをすると、すがすがしい気分になれます。川はいつもその姿を変えず、私に寄り添ってくれました。そんな自分にとって当たり前のように存在していた五行川に興味を持ったのが小学校の授業でした。そして、五年生の夏休みを利用して、妹との自由研

究で五行川の水質調査をしました。身近なところにある川がどこから来ているのか？川の水を調べることは、環境を調べるうえで、重要なのではないかと思います。ごみを燃やすことで発生するダイオキシン、現在では製造禁止になっているPCBなどの化学物質などにより、毎日飲んでいる水や食品、空気などが汚染されていると聞いたことがあったためです。研究の方法として、川の様子を観察やパックテスト（水質検査キット）による水質検査を行いました。栃木県のさくら市にある水源地から、小貝川に合流する筑西市まで、五か所で調査をしてみると、水源地のみCOD（化学的酸素消費量）がやや高かったものの、上流・中流・下流でも特に目立った結果は出ず、とてもきれいな川だということがわかりました。そして、観察をして感じたことは、水源地から下流まで田んぼの中を流れる農業用水として重要な役割をはたしている生活に欠かせない川だということ（利水）、洪水などを防ぐために川岸がコンクリートで作られているところも多い（治水）、工場排水や生活排水などの汚染も見られない、

みんなに大切にされている川であるということですが、他にも、栃木県的那珂川、茨城県の霞ヶ浦、鬼怒川なども比較して調べてみましたが、特に問題となる数値は測定されませんでした。環境問題が深刻だと思っていた川や湖は今ではきれいに整備され、水質もきれいに保たれていたのです。水は人々の心に寄り添い、地域の生活や文化と深く結びついています。大切な川や湖を地域の方々がきれいにしようとする努力しているのだと感じとてもうれしくなりました。

水を大切にし、その環境を守ることは私達の生活を守ることもつながると思います。日本のように水道水が飲める国は世界に十五か国しかありません。今も収束する気配がない新型コロナウイルスですが、下水設備が完備されている国では、新型コロナウイルスの増殖が極めて低いそうです。蛇口をひねれば水が出る、感染を防ぐために手を洗う事は当たり前ではないのです。

現在のように、川をきれいにし、安心して水が使えるようになった背景には多くの人たちの努力があったのだらうと思います。便利な時代になったから

とあって、それを当たり前だと思わず、水の大切さに感謝し、昔の方々が大切な川を守ってきてくれたように現代に生きる私たちも、この環境を守り続け、未来に受け継いでいきたいと思えます。母親になってもおばあちゃんになっても、毎年、川沿いにあるきれいな桜といっしょに写真を撮れるように。